

ピックアップ★

“自然の宝庫”で学ぶ 「尾瀬学校」

認定ガイドから尾瀬を学ぶ

尾瀬学校では、実際に尾瀬に行く前にガイドから、尾瀬について学びます。

子どもたちは、尾瀬で少人数のグループに分かれてガイドの説明を聞き、自分たちの目で見て考えることで、質の高い自然体験や環境学習を行います。

ガイドは、子どもたちに尾瀬の貴重な動植物を解説するだけでなく、尾瀬の成り立ちや、環境保全への取り組みについての話をし、子どもたちの学びを助けています。

平成27年度は、小学校77校、中学校62校の10,213人が尾瀬学校で学びました。

参加児童・生徒の感想

- ★新しい発見や感動があった 89%
- ★ガイドの話が分かりやすかった 82%
- ★自然保護や環境問題に興味を持った 65%

尾瀬は、美しい自然と貴重な生態系を持ち、“自然の宝庫”と称されています。

ぐんまの子どもたちに一度は尾瀬を訪れ、自然や環境について考え、ふるさとを愛する気持ちを育ててほしい。その願いのもとに「尾瀬学校」は行われています。



ガイドの説明を聞く子どもたちの様子

子どもたちの思い出に残る体験学習ですよ！

自然保護運動の原点でもある尾瀬

尾瀬は、「ごみ持ち帰り運動」の発祥の地などでもあることから、「自然保護運動の原点」とも言われています。子どもたちは、尾瀬のトイレや木道の役割などを知ること、尾瀬における自然保護の取り組みを学ぶことができます。

●問い合わせ：尾瀬保全推進室 027-226-2881

文化財ライブラリー

Vol. 5

日本百名城の1つ —徳川四天王の城—

史跡 みのわ 箕輪城跡

場所：高崎市箕郷町
時代：1500年頃～1598年（慶長3年）

箕輪城は、本丸・二の丸・郭馬出（かくうまだし）など主要な施設の多くを丘陵上に配している平山城です。

築城したのは長野氏です。長野氏はこの堅牢な城により、数度にわたる武田信玄の侵攻を防ぎましたが、永禄9年（1566）に落とされてしまいました。武田氏時代には、城代として一時期、真田昌幸が入城しています。その後、織田氏、北条氏が支配していましたが、北条氏滅亡後は徳川氏の城となり、徳川四天王の一人、井伊直政が城主となりました。井伊直政はその後、高崎城を築城し、箕輪城は廃城になりました。

発掘調査の結果、最後の井伊直政期を中心に、門跡、石垣、石組みの排水溝、土塁、堀、掘立柱建物等が見つかっています。特に石垣は、虎韜門（こうとうもん）や鍛冶曲輪（かじぐるわ）、御前曲輪（ごぜんくるわ）西堀などで実際に見ることができます。



箕輪城跡全景

かくうまだしにしこぐちもん 郭馬出西虎口門



郭馬出西虎口門復元模型

「郭馬出西虎口門」は、幅5.7m、高さ6.3mの2階建ての櫓門（やぐらもん）です。郭馬出西虎口は、南側からの3本の道が集約されており、防衛上きわめて重要であり、その場所に堅牢な門を造っていました。今回、発掘調査の成果を受け、復元されました。お披露目は10月末に行われる箕輪城まつりの予定です。

「箕輪城まつり」10月30日（日）

午後から行われる長野氏側と武田氏側に分かれた箕輪城攻防戦の再現は、迫力満点です。ぜひご覧ください！

▶問い合わせ：高崎市教育委員会（027-321-1292）



●問い合わせ：文化財保護課 027-226-4684